

# 空き家にしない考え方

## 第2回 今ある空き家をなんとかしたい



定住環境プランナー  
中村 周子

### 集落将来ビジョン改め、「集落活性化計画」

「集落活性化計画」の元になっているのは、令和3年の住民懇談会の時に説明があった集落将来ビジョンです。「ビジョン」という言葉は〈将来像〉とか〈見通し〉という意味があるのですが、このプランをこれから進めていくにあたり、もっと直感的にわかりやすい言葉の方がいいのでは？と考えて「集落活性化計画」という名称に変えることにしました。

集落活性化計画は、安全で幸福な暮らしを末長く続けるために、そこに住んでいる人たちが「これからこうしていこう」という計画を立てるといったものです。内容に決まりはありません。集落の皆さんが実現したいことを盛り込んでいく計画です。

### 空き家問題には、個人ではなく集落として取り組む

集落活性化計画の内容は、集落の考えで自由に組み立てて良いのですが、空き家対策についても検討していただきたいと思っています。集落で困っていることを伺うと「空き家に獣が住んで困っている」とか「あの空き家はしばらく誰も来ていないようだ、もったいない」とか、そういう話をよく聞きます。気にしている人は気にしているのだと思います。空き家の問題は、個人で取り組むのは難しい事柄です。ですから地域の課題として、空き家の所属している集落から働きかけるのはどうかと考えています。

モデルケースとして先に計画をスタートさせている上蔵地区の取り組みをご紹介します。上蔵地区では空き家の所有者さんにアンケートを送付しました。アンケートの内容は「現在、上蔵にある家を利用していますか？」「空き家のことで困っていることはありますか？」「役場からのご案内をさせてもらいたいの、連絡先を役場に教えてもいいですか？」といったものです。付き合いのあったご近所さんや、知り合いがいる自治会からお手紙とアンケートを送りました。

### なぜ集落から、空き家所有者に連絡をする必要があるのか

自治会から手紙を送る…というところで、おや？と思った方もいるかもしれません。空き家の所有者さんへは、毎年春に役場から固定資産税の通知が送られています。役場はそれぞれの所有者さんの住所を知っているのだから、役場から連絡をすればいいのでは？と思うかもしれませんが。実は個人情報保護の観点から、役場が税務のために持っている情報を他の用途に使ってはいけないというルールがあるのでした。そういうわけで、地域の皆さんから「役場へ連絡先を伝えてもいいですか？」と聞く必要があったのです。

それに、かつて付き合いのあった実家のご近所さんや自治会から「空き家をこれから利用しますか？」と聞かれるのと、役場から「空き家をなんとかしませんか？」というお知らせが来るのと、どうでしょう、想像してみると役場からのお知らせでは気持ちがちょっとこわばる感じがします。大鹿にある空き家をどうにかしないとなあと思っている方に働きかけるなら、役場からよりも、ご近所さんからのの方が良いのではないかと思います。そういう理由もあって、上蔵地区ではこのような取り組みから始めました。

(第3回へ続く)